

令和 6 年度第 4 回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和 7 年 3 月 12 日（水）

13 時 00 分～16 時 15 分

場 所：青葉区役所 7 階会議室

出 席：青木委員長、小川副委員長、荒井委員、
齊藤委員、田口委員、丹治委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 青木 ユカリ

3 議事

(1) 議事録署名人選定 齊藤委員

(2) 令和 7 年度まちづくり活動助成申込事業 事業計画説明会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答、意見等

① オレンジクラブ広瀬の杜

委員 課題感や深刻さについてよく理解できた。団体の活動しているエリアは、この広瀬の杜団地になると思うが、対象者数等についての分析はどこまで進んでいるのか。

説明者 具体的にはまだこれからである。この団地は町内会 1 つ分ぐらいの規模がある。この団地においても、いわゆる孤独死が発生し、それが 1 週間とか 10 日で分かればよいのだが、3 ヶ月後にわかったといった深刻な事態が発生したことがあり、胸を痛めているところだ。

委員 今年度の事業の見通しについて教えてほしい。

説明者 今年度は、見守りサービスの重要性等について専門家にお話しをしてもらったり、見守りの取組みについてシステム化していくため、専門家に相談したりといった形をとりながら、いろいろな調査を進めていきたい。私はこの団地ができたときから住んでおり、町内会を立ち上げた経験もあるため、町内会との繋がり強い。また、マンションの管理組合で修繕計画の相談や責任者をした経験から、そういったところの人脈があるため、団地に関係する様々な組織とも連携を図りながら調査研究を行い、東京で先行している団体等とも連携しながら、いろいろなシステムを構築していこうと考えている。

委員 事業の活動スケジュールについて、2 点伺う。1 点は 8 月から 11 月までが未定とあるが、現時点ではどういった活動を考えているのか。オレンジカフェ講話という取組みを、昨年度の場合であれば継続して行われていたようだが、今回もそういった取組

みを考えているのか。もう 1 点は、質問というよりは、ややアドバイスの意味合いで、1 月に孤独、孤立の実態調査を予定されているが、もし可能であればこれをもう少し早めに行うことで、2025 年度の活動にこの実態調査の結果を生かせるのではないのか。その辺りを検討いただければと思う。

説明者 申請書を出す時点では、まだスケジュールが確定していなかったことから、未定となっていた。2025 年度スケジュールにおいて、3 月から 7 月と 8 月から 12 月の時期に、年に 2 回パンフレットを出しており、順次それぞれの団体と交渉しながら、内容を決めていく予定だ。先ほど委員からアドバイス頂いた今年度の調査については、この 1~2 月に調査、分析した結果が報告書になっている。これから具体的に ICT を使って、どのように見守りを行っていくかといったことについても検討していきたい。実際、本稼働していくには、町内会や管理組合といった団体と協力しながら進めていく必要がある。特に分譲マンションは入居時に緊急連絡先を教えてもらうことになっているため、そういったものを活用できないか等検討したい。団地内で協力が得られるよう調整していくのに、おそらく 6 ヶ月以上はかかる見込みだ。携帯電話の LINE を使い、具体的な確認や連絡のシステムを構成していくといった、そういうものを検討していきたい。

委員 ICT を活用した見守り活動をよく考えていただいているという印象だ。広報の仕方として、事前資料では、チラシを全戸に配布すると書かれていたが、この LINE でつなぐこととは別に、そのチラシは講話などのイベントを周知するためのチラシという位置づけか。

説明者 イベントではなく、LINE を使った見守り支援の取組みについて周知を図るものだ。

委員 申請書では、子供や小中高校生との交流も組み入れるとあるが、どのような方法でどういったところに働きかけるのか。

説明者 2 年ぐらい前から、小学校や中学校の校長先生とコンタクトし、中学生等によるボランティアグループを作っている。そういう方々がオレンジカフェの行事にボランティアとして参加、交流することや、年配の方を招いて、地元のエピソード等を紹介してもらうといったことを考えており、世代を超えて、見守りのコミュニティを形成していきたい。

委員 今回の助成申請の内容は主にチラシの作成に要する経費となっているが、ICT を活用したシステム化にかかる部分については含まれているのか。

説明者 見守りのシステム化を周知するためのチラシ作成するため、申請内容に含まれているという認識だ。

委員 地域の住民によりセーフティネットを作るということで、とても素晴らしい取組みだと思う。ただ、代表者本人の持ち出しが多いのではということと、会員による会費は徴収せず、参加費も 5 年間無料ということだが、今後の継続性を考えた際、ICT の方は登録料金などを取られるかと思うが、この活動について印刷費以外の、例えば、東京から専門家を呼んだりする場合に、この予算内で会費を提案済みということで今後とも考えられているのか。

説明者 1年目はほとんど自分の持ち出しであったが、2年目からは、公益財団法人から助成金をもらっていた。コーヒーを提供するにも、自宅のコーヒーメーカーを使用するなど工夫していた。当初は5人ぐらいのイベントであったが、徐々に参加人数も増えたため、公益財団法人から助成を受けてコーヒーメーカー等を準備できるようになった。

委員 地域の支えあいセンターなどとも連携しながら進められているのか。

説明者 そういった団体とも連携している。

② GARDEN of RIVER, SENDAI project

委員 この活動は3人だけで行っているのか。

説明者 3人だけではなく、団体に加入せずに参加している方もいる。

委員 講師は県外からも呼ぶ予定なのか。

説明者 仙台市の方だけではなく、県外からの講師といった幅広い視点で話を聞けたらと考えていた。

委員 事業の中でたき火とあるが、安全面についてはどのように考えているのか。

説明者 たき火については、直火ではなく、シートを引いて行うことで考えている。消防等関係機関への申告も含め、安全には十分配慮したうえで実施したい。

委員 全体的な主旨等々については、素敵なプロジェクトだと思う。人件費について、学生ボランティアへの謝金とあるが、謝金を支払うことについてはどのように考えているか。

説明者 学生ボランティアへ謝金を支払うというのは、学生も忙しい中参加してもらっているということもあり、より多くの学生に参加してもらい、この活動が継続的に行うためには必要と考えている。また、何かあった時に備えて、学生だけでなく、関わる人に対してレクリエーション保険を毎回掛けている。

委員 毎月事業を実施しているということは、同じ方が毎回参加する想定でいるのか、それとも幅広い方に参加してもらえよう告知はしているのか。

説明者 告知については、幅広く周知を行っている。

委員 広報はどのように行っているのか。SNSやチラシなどは、どの辺に配布するといったことは決まっているのか。

説明者 現在は市民活動サポートセンターや仙臺緑彩館で配布している。また、今後は学生との関わりというのを考え、少しずつだが学校関係にも広げていきたい。

委員 通信費等の支出が少ないようだが、広告はどのように行っているのか。Webが中心なのか。

説明者 Webによる広告を中心に考えている。印刷費を少なめに計上していたが、実際にはもう少し費用がかかっているのか、金額の内訳は少し調整が必要かと思われる。

③ 特定非営利活動法人ソワカ

委員 今回6回目のチャリティーイベントを実施し、参加者が200名程度ということだが、

これまでも大体そのくらいの参加人数だったのか。

説明者 10時半から3時半頃までのイベントで、毎回そのくらいの人数となっている。

委員 今回、特定非営利活動法人ソワカとして申請している、ということでしょうか。
団体についての設立年月日が平成16年からとなっているが、定款における認証の日付では、令和6年9月となっている。ソワカとしては、令和6年9月に設立され、法人化したという理解でよいのか。

説明者 もともと別な名称で法人格を取得していたが、その名称が硬い名称だったため、なじみやすい名称に変更し申請したもので、団体自体には変更はない。

委員 平成16年に名称変更前の法人活動が始まり、活動内容についてはそのまま継承されているという理解でよいのか。

説明者 そのとおりだ。

委員 これまで6回の開催実績があるとのことだが、経費について過去に開催した際には自己資金以外では、どういった資金を活用して運営していたのか。

説明者 基本的には自己資金で開催しており、このほかには募金箱を設置し、音響機材のレンタル費用等に充てていた。また、マンパワーとしては、音楽仲間に手伝ってもらっていたが、それでも運営が苦しくなってきたため、今後も活動を続けていくために、この助成金に応募したものである。

委員 自己資金の内訳としては、団体で製作したTシャツの売り上げや、入会金、年会費、といったものか。

説明者 そのとおりだ。

委員 事業の概要で、ひとり親家庭の支援のための寄附とあるが、仙台市内のひとり親世帯に対して支援を行っていたということか。寄附先はどこになるのか。

説明者 市内で女性や子どもに対して悩みごとの相談や、食糧や日用品の提供支援といった活動を行っているNP0法人に寄附している。被災した石川県への寄附も行った。

委員 過去どのくらいの規模の寄附を行っていたのか。

説明者 2022年から2025年1月までで、先ほどのNP0法人に寄附したのが10万円程度。石川県に寄附したのが10万円弱だったと思う。また、別団体にはなるが、おてらおやつクラブというNP0法人に、過去に寄附した経験もある。

委員 そういった自己資金の中で寄附をされたということか。事業の概要の、募金活動というところに、入場料は投げ銭制による募金箱の設置、イベントの収益から運営費用を除いた全額をひとり親家庭支援のために寄附している旨記載されているが、募金箱による集めたお金から運営費を除いた分を、ひとり親家庭の支援に充てるという理解でよいのか。

説明者 そのとおりだ。前回までは募金箱は設置していたが、基本的には入場無料ということで開催していた。入場無料というとやはり無料がいいと思う方が多く、募金してくれる方も芳しくないようだったので、今回から投げ銭制にした。運営費を引いて、残りを全部寄附したいと考えている。

④ 一般社団法人東北かけこみ寺

委員 支出の部で、ポスターの作成が10枚で3万円、印刷で5万円となっているが、ポスター1枚で1,000円ぐらいかかる計算になるが、これは妥当な価格なのか。また、ワークショップの開催とあるが、こういったものを予定しているのか。

説明者 ポスターの作成については、アーティストにデザイン製作を依頼するため、妥当な金額と考えている。ワークショップの内容については、アーティストに来てもらい、例えば一緒に何かを創作したり、それを横丁に飾ったりすることで、一緒に生きがいを見つけられるようなワークショップを考えている。

委員 開催場所としては、今あるギャラリーをリニューアルするということか。

説明者 1階をギャラリーとし、2階を相談室にするといったことを検討している。

委員 展示物については、基本的にはアーティストとのコラボレーションで、そこに来られている方のアート作品を飾るということか。

説明者 アーティストが、作品を自分で持ち込んで、自分で飾るといった、そういう社会経験をしたいため、我々は空間を提供するということで、アーティストは自分で作品を飾ってもらう形を考えている。

委員 ワークショップについて、その参加対象や参加費について教えてほしい。

説明者 参加対象は、駆け込み寺に相談に来た方を考えている。駆け込み寺の参加費は全て無料としているため、ワークショップについても無料で考えている。いろは横丁に立ち寄った方等については少額でも寄附をいただいた方がよいと検討している。

委員 ワークショップの広報の仕方としては、ある程度範囲を限定して広報することで、来ていただく形か。

説明者 月に30～40件の電話相談を受けているが、内容的には具体的な問題や生活保護が欲しいとか、そういったところに行くような方ではなく、心が疲れてる方が多く、そういう方に対して今度ワークショップがあるから、どうかといった形で案内したいと考えている。人数的な制約もあるため、基本的に対象としては、駆け込み寺に相談に来た方になる。

委員 現実的には、数十人といったところか。

説明者 そのとおりだ。

⑤ かけこみ未来塾

委員 場所については、もともと市民活動サポートセンターや公民館などで実施していたが、今後は市民団体「ファイブブリッジ」の施設を利用するというで計画を立てているが、中心部であるため、行動範囲がそれほど広くない子どもにとっては交通費がかかる可能性も考えられる。家庭の経済事情等に伴う学力格差の是正といった課題に対して、こういったところを対象として考えているのか。

説明者 これまでは市民活動サポートセンターなどの公共施設や、いろは横丁の駆け込み寺を利用してきたが、公共施設は、予約が取りにくいという背景があり、子どもたちが安心して学べる場所を探していたところ、ファイブブリッジという場所を見つけた次

第だ。現在すでにファイブブリッジで活動を始めており、子供たちの生活圏ともそれほど遠くないということで、今現在は問題なく進めることができている。2つ目の、対象はどこかということについては、もともと駆け込み寺を利用して小さく始めたということもあり、現時点では、通えることのできる子供をターゲットにしている。中心部ということにはなるが、交通の便も良いところではあるので、交通費はかかるものの、必要な家庭はたくさんいると、私たちも確信している。

委員 スケジュールと予算の紐づけについて3時間程度、現在実施している内容のところに、今回の助成金を充てていくという理解でよろしいか。それとも、今予算で計上されているファイブブリッジの使用料が、月4回、12ヶ月となっているので、この活動以外には、活動はされないということでもよろしいか。また、今登録されている講師は大学生中心にということで、様々な教育に関わってくださるような方がボランティアで参加されているということだが、そういった方と親御さんとの関わりをどうされるのか、その個人情報も含めた守秘義務についてはどのように対応しているのか。

説明者 まず予算については、講師は全員ボランティアとなっており、現在助成金を充てたいと考えているのは、場所に対する費用だ。現在は、週に1回、土曜日、2時間開催となっているが、そちらに充てていくというのが主な目的だ。2つ目のボランティア講師に関することだが、3分の2が、高校生から大学院生までの学生となっているが、社会人のメンバーもあり、現在駆け込み未来塾で、構成している運営委員会に、必ず大人が同席するようにしている。ボランティア講師を採用、登録する際に、塾長が必ず面接を行い、様々な約束事について説明をした上で、納得をして入っていただくことになっている。駆け込み未来塾に通ってくる児童生徒の個人情報についても、きちんと管理をした上で、また最初に入塾していただくときには、保護者の方と面談をさせていただき、事情などを詳しく聞いた上で、入っていただいております、個人情報についてもきちんとした形で管理をしている。

委員 ほかに誓約書を取るなどの対応も考えられるだろう。対象について何うが、ひきこもりや貧困家庭といった家庭以外は、利用できないということか。その対象の子と面談されて決めるというところで、断るお子さんがいるイメージでよいのか。

説明者 現在ホームページやSNSなどで広報しており、有料塾に様々な理由で通えない子供を対象にしているため、そのことを理解いただいた上で、申し込や問い合わせをしていただく保護者の方が大半だ。このため、これまでお断りをさせていただいたケースは、ほとんどない。塾長の方で、保護者の方と面談をさせていただいたうえで、事情を理解したうえで、入塾していただいている。あくまで、様々な理由で有料塾に通えない家庭のお子さんを対象としている。

委員 地域や小中学校、行政機関との連携の可能性については、どのように考えているか。

説明者 これまで子供の居場所づくりや、子供食堂を運営している団体の方々と接点を持つなどの努力をしてきた。実際に相談をしており、今後協力していただければという話を進めているところもある。現時点ではそういった団体を想定しているが、今後さらにフードバンクの団体などとも協力、つながることができればと考えている。

委員 行政関係の施設はいかがか。

- 説明者 行政関係については、現時点では社会福祉協議会にチラシを置くといったお願いをしているということにとどまっている。
- 委員 30名のボランティア講師の方がいるうち学生が多いと、どうしても新年度になると、入れ替わりがあると思うが、新たなボランティアを集めるための仕組みはあるのか。また、そういったことをやるにあたっての事業の継続性について教えてほしい。
- 説明者 大変ありがたいことに、ボランティア講師の方については、問い合わせが非常に多く、面談をして、協力して頂いている状況だ。また卒業して仙台を離れても、何かあれば協力したいという学生が非常に多く、未来塾が学生に本当に恵まれている状況にあると感謝している。事業の継続性に関しては、講師の方は、継続して入ってきていただいている。また、この未来塾は、最初は駆け込み寺の付帯的な事業として始まっているため、そういった意味では協力を頂ける体制は整っている。
- 委員 当団体の構成員について、会員数、講師22名とあるが、会則の方では、正会員等の記述があるが、こういった会員は、現状では、どのような状態になっているのか。
- 説明者 名簿を提出した時点では、22名だったが、現時点では30名近く、ボランティア講師が登録している。運営委員会を最近立ち上げたばかりで、今後はそういった組織づくりを進めていく予定だ。
- 委員 現状では、ここでいう会員は何名いるのか。
- 説明者 現状では駆け込み寺の理事3名だ。

⑥ 青葉通まちづくり協議会

- 委員 道路占用許可の関係で6月～8月の3ヶ月間を想定しているが、製作したフラッグを連続してまた別の機会に使用するのか、もし今の段階で検討していることがあれば、教えてほしい。
- 説明者 設置の期間については、道路占用の兼ね合いで3ヶ月間と設定している。これを延長するかどうかについては、他のイベントとの連携等、様々な要素を加味しながら検討したい。
- 委員 現時点ではまだ決まっていないということか。
- 説明者 これからの調整次第かと思っている。
- 委員 実際の予算次第で本数については検討ということだが、最低限何本くらいはという見込み、検討案というのはあるか。
- 説明者 トータルの収支としては、100万円ぐらいの事業ということで計画しており、過去の見積もり等をもとに計算すると、100万円だと最低でも50本ぐらいを設置可能と考えている。その50本を、西公園から仙台駅前にどう配置するかといったところは、検討を重ねていく必要がある。
- 委員 将来的にはマネタイズを見据えているということだが、情報発信サービス事業という、今、やられていることとしてはフラッグの掲出ということになるかと思うが、それを含めた、例えば今後の活動継続について、その辺りの構想など、今の段階で考えていることがあれば教えてほしい。

説明者 構想としては、まずは今回のフラッグ掲出を実施し、その実績を参考にどういった広告展開ができるか検討していきたい。

委員 にぎわい創生に寄与したかどうかの検証を予定されているようだが、具体的にはどのような形での検証を考えているか。地域の方や、協賛企業の意見は、直接把握できると思うが、それ以外については、どのような検証方法を考えているのか。

説明者 アンケート調査を実施する予定だ。これは協議会の会員だけではなくて、沿道の住民や来街者に対しても実施したい。ネットアンケートのような形を想定している。

委員 助成金とは別枠になると思うが、協議会会員からの協賛金というのは、フラッグの大きさによって協賛金を集めるということで 50 万円ということか。3 分の 1、5 分の 1、2 分の 1 といった広告の大きさに応じて金額を変えていき、効果の検証を行うということか。

説明者 フラッグの大きさに応じた協賛金の金額の配分をどうしていくか等については、今後検討していきたい。

委員 フラッグを、企業によって変えてしまうと、統一性や、西公園まで誘導するときに、見た目があまり芳しくないようなことにならないのか。まちづくり協議会の会員だけでも 49 団体くらいあり、1 企業 1 フラッグということだが、企業によっては多く掲出したいなどといった企業は出てこないか。

説明者 フラッグ掲出にあたっては、バランスを考えながら、見た目も悪くならないような方法を検討したい。

委員 西公園に誘導するような統一性や、そういったことも大事と思う。

説明者 フラッグに掲載するロゴの大きさについては、あらかじめこのフラッグを作る前にデータアンケートをとったうえで進めるなどして工夫したいと考えている。青葉通りのブランディングなどについて、あらかじめ確認したうえで製作したものを掲出した。

⑦ みやぎ子どもの文化研究所

委員 人形劇の実施回数としては、秋と春に 2 回程度予定しているということでしょうか。

説明者 そのとおりだ。

委員 予算的にはテントや、謝礼金に使われるということか。

説明者 西公園には電気がないため、発電機も必要になると思う。

委員 参加者からは、参加費を取る想定はしていないのか。

説明者 そのとおりだ。楽しく遊んでもらいたいと考えている。

委員 規模感からいくと、何組くらいの親子が来ると想定しているか。

説明者 親子で 100 人くらいを見込んでいる。

委員 人形劇に関する宣伝はどのようなものと考えているか。

説明者 紙面によるチラシの配布を考えている。

委員 何か SNS による宣伝は考えているか。

説明者 そういったものは考えていない。幼稚園と児童館へのチラシの配布といった方法を

考えている。

委員 対象としては近隣の子供たちに来てもらい、まず人形劇を皆さんに楽しんでもらいたいということか。

説明者 人形劇を文化という形で、根付かせたいという思いだ。

委員 雨天時はどのように人形劇を実施する予定か。

説明者 雨の時にできるかどうかは難しいところだ。ブルーシートを掛けるなどの工夫は考えられる。

委員 実際のテントの大きさはどのくらいの大きさなのか。

説明者 3平方メートル程度の、山型の形をしたものを2台並べて連結し、1台を舞台として使用し、もう1台を客席として観劇するイメージである。

委員 テントはレンタルするのか。

説明者 持ってる人から借りようと思っている。

委員 今回の申請で10月と3月に予定されているものが、西公園150周年に関連したイベントになるのか。

説明者 西公園で昔はこういうことをやっていたという、形でパネルを置くといったことを考えている。

⑧ ほっこりほわほわ羊毛プロジェクト

委員 藍染のワークショップを2回実施するというので、計画を立てたと思うが、そこに至るまでの、藍を育てるところが、西公園プレーパークの会に委託予定とあるが、藍を育てている過程というのは、参加者にどのように体験してもらうのか。

説明者 育てている過程は、表示をしていこうと思っている。

委員 種をまき、育て、収穫し、そういった過程をワークショップに生かすという流れを考えていると思う。プレーパークを使うということで、その過程も、いろんな形で見てもらえる機会がつかれるのではないかと感じた。

⑨ 特定非営利活動法人 都市デザインワークス

委員 ワークショップを3回実施するというので、何人ぐらいの参加を想定しているのか、ワークショップの規模感について伺いたい。もう1点は、ガイドブックと事業概要にあるが、なぜ冊子形態である必要があるかについても伺いたい。つまり、例えばウェブであれば、スマートフォン等々で現地に行ったときに確認できるのではないかと。300冊という冊子の作成予定数を考えた際に、こういう記録を残していくという意味で、どういう手法がいいだろうかとということになるが、なぜここが、ガイドブックという形態だったのかということをあわせて教えてほしい。

説明者 最初の質問のワークショップの参加者の想定については、幅広い参加者を考えているが、会場の場所にもよる。4月に関しては、新緑祭というイベントでワークショップを行うこともあり、より多くの参加者に来てもらえる想定をしていた。2つ目の質問の

ガイドブックという形態だが、我々としてはこれまでも、ガイドブックというものを作ってきた経験があり、様々な年代の方に手に取ってもらいやすいという点と、今回いろんな方に関わってもらい、形としてこういったものができたという、コミュニケーションとして見せることができるというのは大事であるため、冊子という形態を考えている。書店にも設置してもらうことを考えており、そういった中で、ウェブだけではない媒体も作っていきたいと考えている。300冊という冊数については、以前もこういったガイドブックを考えた際に、これくらいの数だと、扱いやすいといった経験をもとに算出した数字となっている。

委員　西公園の歴史を、150年を紐解くアーカイブのような、素敵なものができ上がるだろうと想像する。これからの50年というところでも説明いただいたところだが、例えば他の地域から来ている方にとっては西公園の重みや歴史、どんなことがあったかというところまでの想像がつきづらく、また仙台駅からも遠いので、その公園でどんなことが行われたのかという、イメージがつきづらいのではないか。今までの西公園を知っている方からの声を聞いて、ガイドブックを作るというのは想像しやすいが、西公園を全く知らない方や関わったことがない方も含めてそのワークショップに参加したい、その魅力を知りたいというようなところで考えると、これからの50年というところが、ワークショップも含めて、何か工夫やテーマなど、仕掛けみたいなのがあれば、教えてほしい。

説明者　どういった切り口でやるかというのはまさにそのとおりで、インパクトが大きい部分で議論をしていくというのも1つの方法ではないかと思っている。潜在的な課題というの、しっかり炙り出すようなことができたとは思っている。

委員　ワークショップや取材を重ね、完成されるまでの間というのは、並行して実施されるのか。それとも、ある程度、ワークショップやイベントが区切られて、取材活動が終了した上で冊子を作っていくというようなプロセスか。

説明者　冊子は構成ごとに同時並行で進んでいく予定だ。

委員　西公園は自然環境が大事であり、四季折々の内容をガイドブックに反映しようとした際、11月に完成する場合は、そういった西公園の自然環境の素晴らしさをどのように伝えていけるのか。また、トークセッションが11月に開催するということが、ガイドブックを完成させた上で、トークセッションを実施するような流れかと思うが、内容についてどのように考えているのか教えてほしい。また、トークセッションの場所や規模感について教えてほしい。

説明者　我々もこの企画を検討する中で、四季折々の魅力があるということは話題には上がっていた。四季の魅力をどう反映させるかについては、思い出の写真やエピソードなども寄せていただくので、そういったところから収集する機会もあると思っている。完成記念トークセッションについては、我々単独ではなくて、周辺も盛り上がっている日に、できればと考えており、11月に、青葉区民まつりの開催があるため、そういったところと相乗効果を考えながら実施したいと考えている。

委員　トークセッションについて、実施場所や、こういった参加者や登壇者を想定しているのか。

- 説明者 場所としては、せんだいメディアテークや、仙臺緑彩館を想定しており、それなりに会場費がかかってしまう。セッションの中身に関しては、コラムを執筆して頂いた方に、構成ごとにそれぞれ代表して、参加いただくのが、冊子に対しての理解が深まるのかと思っている。西公園のこれから、ということにもっと踏み込むのであれば、未来への構想という部分を中心的に話していくかと思っている。その辺まではっきりとしたところまでは決めてはいないが、いくつかのパターンは想定している。
- 委員 書籍について、A5 サイズで 200 ページほどある冊子を製作するという予定だが、その用途としては、これを片手に持ちながらガイドブックとして活用されることを想定しているのか。それとも西公園の歴史を知る目的で活用してもらうのか。デジタルデータの活用といったことも期待したい。
- 説明者 200 ページの A5 判というのが、実際のサイズとしては意外と簡易なものになっている。いわゆる記念誌みたいに、分厚い枕のようなものにはならないと思われる。

⑩ 杜の都のクラフトフェア実行委員会

- 委員 助成対象経費のうち、リーフレットデザイン料や印刷費について 1 年目決算と 2 年目予算で、金額が大きくなっているように思われるが、背景としては、最近の物価高騰といった事情も関係しているのか。その理由について教えてほしい。また、能登半島被災地作家招待費ということで 15 万円について、単に招待をして、販売をしていたかどうかということなのか、それとも被災後のものづくりの苦労をミニ講座・講演のような形で、伝えるようなことを想定しているのか、教えてほしい。
- 説明者 リーフレットのデザイン料や、お散歩マップの印刷料に関して増えていることについては、お散歩マップの印刷費に関しては、去年はサンモール一番町商店街の南側のエリアで、A3 判ぐらいの大きさの紙 1 枚ものを作成した。今年は、サンモール一番町商店街から北のほうに進んでいくような内容でお願いしたいと思っており、今年分だけを作るのではなくて、去年の分も含わせて、冊子のような形になるものをつくりたいと思っている。クラフトフェアが終わった後も制作したものが、継続的に効力を発揮するためには、お店の方々の思い等を詳しく紹介するようなものでもいいのではないかと内部で話し合い、ただの紙のマップよりは、冊子的なものになるといいのではないかとということでその分の費用が増えている。また、能登半島の作家たちの招待に関しては、必要な機会でもあるため、何らかの形で彼らの話を聞く機会を設けたいと思っている。
- 委員 1 お散歩マップに掲載されるお店から協賛金等をもらえれば、事業の継続性につながるのではないと思う。
- 委員 2 収入の部で、去年は学生枠の出展料を 2 万 8,000 円計上されているが、今年計上されていないのはそういった学生の枠を募集していないためか、それとも無料にしたためか。また、支出の部でツアーコンダクターの委託料が 12 万円ぐらい計上しているが、何人ぐらいのツアーコンダクターを予定しているのか。
- 説明者 学生枠に関しては、今年は枠を設けないということでなくしてはいるものの、引き

続き、若手の作家たちを応援するという姿勢は持ち続けていきたいと考えている。ツアーコンダクターの委託料については、2 日間の委託料で、ツアーコンダクター自体は、1 名に案内してもらう内容で去年実施した。今年計上した金額については、去年の実績を参考に計上している。

委員 大体 1 日 6 万円ぐらいということになるのか。

説明者 ツアーコンダクターの人件費だけではなく、運営費用等を含んだ、外注経費一式として計上している。

委員 今後、文化的な事業として広げていくにあたり、点だけではなくて、面的に連携していく際、近隣の商業施設と連携していくといった話はあがっているのか。

説明者 使っているお店と、お酒関係の企業と、横丁等を巡ったりする形で、少しずつ広げていきたいと考えている。

委員 昨年の課題や問題点について、対策の方についてもいくつか記載されているが、実施体制の部分でも、ボランティアスタッフの募集や、大学生のグループとの連携とあるが、何か媒体を通じて募集するといった取組みは検討しているか。

説明者 東北工業大学の地域連携センターを通して、同学の学生への呼びかけを行っている。今年からの新しい試みとして、東北学院大学のボランティアサークルがあり、そういった団体からも広く募るような方向で進めていきたいと考えている。

委員 収益性の改善について、今回出展料の見直しとあるが、具体的にいくら値上げを行ったのか。

説明者 今回は、去年と同じ金額で、据え置きとした。しかし、警備費などもどんどん上がってきているため、将来的には上げざるを得ないこともあるかと思う。どうしても作家の負担が大きくなってしまうため、できるだけ上げないような形でとは考えているものの、将来的には値上げも検討する必要があると考えている。

(3) その他

4 閉会

以上の内容について、相違ないことを認めます。

署 名 人 _____

議長（委員長） _____